

第53回 理事会議事録

1. 開催日 2026年9月5日(土) 14:00～17:00
2. 開催場所 各自宅等にて Zoom 会議に参加する。
3. 理事 23 名中 20 名が出席し定足数を満たした。
(出席) 村越真 前田(大里)真理子 鹿島田浩二 高島和宏 信原靖 糸早穂 石澤俊崇
今泉知也 小林力 吉村年史 加納尚子 中野智美 野中好夫 市橋国之 浴本悠貴
千葉望央 田中紅音 美濃部遼 犬尾英里子 野村善弥
(欠席) 野田聖子 大野徳子 湊菜々子
監事：齋藤宏顕
顧問：愛場庸雅 杉山隆司
事務局：小野賢二 高島恵美子（記録）
議長：定款 32 条により、村越副会長を指名した。
・村越副会長は議長就任にあたり、表決には加わらないこと、但し賛否同数の際に表決を行うことを表明した。従って今理事会での村越副会長の表決は全議案棄権票として扱う。

審議事項

第1号議案 委員会規程改訂の承認(今泉業務執行理事)

事業が終了した下記実行委員会を、「委員会規程」から削除する。

- ・東京 2025 デフリンピック委員会
- ・WSOC2026 実行委員会

以上、審議の結果、第1号議案について出席理事総数 20 名のうち賛成 19 名、反対 0 名、棄権 1 名により原案を承認した。

第2号議案 入会・退会に関する規程改訂の承認(今泉業務執行理事)

過去に退会届を提出し退会した会員が再入会する場合の取り扱いについて、「入会・退会に関する規程」に復活会員の条文を追加し詳細を定める。

以上、審議の結果、第2号議案について出席理事総数 20 名のうち賛成 19 名、反対 0 名、棄権 1 名により原案を承認した。

第3号議案 会員支援に関する施行細則改訂の承認(信原業務執行理事)

「会員支援に関する施行細則」について、下記の内容を追加する。

- ・復活会員で支援を必要とする会員については、再入会時の特別支援金を、退会前の会費の未納分、または入会金に充当可能とすること
- ・競技者登録の登録料を原資とする支援に上限を設けること
- ・本則の改正は理事会の承認を得て行うこと

以上、審議の結果、第3号議案について出席理事総数 20 名のうち賛成 19 名、反対 0 名、棄権 1 名により原案を承認した。

第4号議案 NI 規程改訂の承認およびガイドライン改訂の報告(信原業務執行理事)

「ナビゲーション・インストラクター規程」に、登録料・更新講習の免除について明記する。また、免除の具体的な要件は、「ナビゲーション・インストラクター規定に関するガイドライン」を改訂して示すこととする旨の報告があった。

以上、審議の結果、第4号議案について出席理事総数 20 名のうち賛成 19 名、反対 0 名、棄権 1 名により原案を承認した。

第5号議案 会員支援金の不足額の取り扱いの承認(信原業務執行理事)

R8年度の会員支援金の原資であるR7年度の収入が約110万円となり、今年度の支援希望額に対して不足が生じる見込みであることから、今年度については、これまでの累計残高約85万円から不足分に充当したい。

(質疑・意見など)

- ・支援金原資の徴収方法について質問があり、JOA主催大会や公認大会において、参加費とは別に支援金として参加者から一定額を徴収している旨説明があった。
- ・原資の徴収方法について、指導者等様々な関係者がいる中で競技者のみから徴収する仕組みの是非について疑問が呈された。
- ・今年度の公認大会については参加申し込みが順調であり、今後は状況が改善されるのではないかと意見があった。

以上、審議の結果、第5号議案について出席理事総数20名のうち賛成18名、反対0名、棄権2名により原案を承認した。

第6号議案 普及・指導委員会委員追加の承認(信原業務執行理事)

NI小委員会の活性化及び業務量増加への対応として、普及・指導委員会に次の委員を追加する。

吉田美枝子氏

以上、審議の結果、第6号議案について出席理事総数20名のうち賛成19名、反対0名、棄権1名により原案を承認した。

第7号議案 認定資格規程改訂の承認(信原業務執行理事)

インストラクタ養成講習会の講師の資格要件と、講師養成のためのインストラクタ養成講師資格研修会の内容を、「認定資格規程」に追加する。

以上、審議の結果、第7号議案について出席理事総数20名のうち賛成19名、反対0名、棄権1名により原案を承認した。

第8号議案 2026年度全日本大会(ミドル・ロング)事業者発注先の承認(条業務執行理事)

第53回全日本オリエンテーリング大会において必要な役務の事業者を選定した。委員会内委員である事業者への発注となるため、利益相反の観点から理事会での承認をお願いしたい。

事業者は以下の通り。選定は金額が最も安い業者にて選定。

- ・地図シーリング及びコントロール位置説明印刷:坂野山遊地図企画
- ・ゼッケン印刷:NishiPRO

以上、審議の結果、第8号議案について出席理事総数20名のうち賛成19名、反対0名、棄権1名により原案を承認した。

第9号議案 R8年度JSCスポーツ団体選手強化活動助成金配分額の承認(鹿島田業務執行理事)

2026年度にJOAより申請した、JSCのスポーツ団体選手強化活動助成金(支給総額200万円)の配分として、2022年6月の理事会において承認されたガイドラインに従い、以下の通り配分する。

スキーO:54万円、マウンテンバイクO:50万円、フットO JWOC:46万円フットO WOC:50万円
(トレイルOは2026年度世界選手権がなく申請がない)

以上、審議の結果、第9号議案について出席理事総数20名のうち賛成19名、反対0名、棄権1名により原案を承認した。

報告事項

- 1)全日本オリエンテーリング実行委員会 活動報告(条業務執行理事)

- ・2025 年度全日本ミドルでの遭難事故後の対応報告
- ・2026 年度全日本ミドル・ロングについて、日程的に集客が伸び悩んでいる
- ・今後の使用可能トレイン、特に 2028 年度開催可能な地域の情報提供をお願いしたい

2) JOA 登録の進捗報告および今後の想定(信原業務執行理事)

- ・JOA 登録 DB 構築に向け、必要な DB の種類とデータ項目の検討を行っている
- ・「JOA 登録 DB」で氏名・連絡先等の共通事項を管理し、競技者登録や資格者登録等、目的別の DB と連携させる構想
- ・今後、関連規定の整備も検討する

3) 地域活性化委員会の活動報告(信原業務執行理事)

会員から地域活性化委員会に寄せられた要望の情報共有を行った。以前は金銭的な支援が主だったが、近年は活動の活性化等、人的支援に力を入れている。

4) 大会参加者の災害補償実施基準改訂の報告(今泉業務執行理事)

保険会社の約款改訂に合わせて以下の実施基準の改訂を行う。

- ・被補償者は日本国内に居住するものに限る
- ・補償を行わない場合に、地震・噴火・津波による損害による場合を追加

国外居住者は補償対象外とであるという補償内容の周知方法について質問があり、傷害保険利用申請のあった大会主催者を通して周知するとの説明があった。

5) AUTHENTIC JAPAN 株式会社様からの提案の検討状況(今泉業務執行理事)

第52回理事会から継続して検討することとなった事項について、以下の報告があった。

- ・AUTHENTIC JAPAN 株式会社との代理店契約を北海道オリエンテーリング協会が受託した
- ・JOA としての契約に向け、定款改正の方向性を引き続き総務委員会で検討していく
- ・同社からの協賛については、助成金制度として位置付け整理する

6) テレイン管理の適正化(村越副会長)

テレイン利用に関する課題が散見されるため、改めて各会員宛にテレイン管理の適正化について啓発文を発出する。

7) WMOC2027 財務への対応(村越副会長・愛場顧問)

- ・開催準備はおおむね順調に進んでいる
- ・IOF サンクションフィーの 10 万€について、円安の影響もあり参加者数によっては不足の恐れがある。不足分は JOA 負担となる
- ・運営経費は総予算規模 5000 万円程度。赤字額が発生した場合の補填方法について、実行委員会と兵庫県 OL 協会とで今後検討が必要
- ・広域輸送バスの業務委託について検討が必要

8) 安全対策の推進のための WG(村越副会長)

安全対策推進のため、次の事項について関係の委員会との協議を準備中である。

- ・ナビゲーションスポーツのための安全ガイド改訂
- ・参加者向け教育(E-learning)
- ・運営者向け教育
- ・リスクマネジメント人材の育成

9) 文部科学省の国際競技大会優秀者等表彰について(野中理事)

東京 2025 デフリンピックで入賞した日本デフオリエンテーリング協会の次の 5 名の選手が、2026 年 8 月 7 日(金)に国際競技大会優秀者として文部科学省から表彰された。
辻悠佳選手、堤大揮選手、小嶋太郎選手、児玉健選手、上園久美子選手

10) 財務関係スケジュールと寄附金の状況(今泉業務執行理事)

JOA の財務状況について、年度途中での施策立案や対策、計画変更などの意思決定を行うため、年度途中の収支状況を把握できるスキームを整える。
今年度の寄附金の募集状況について、順調に寄附をいただいているが、引き続き広報に努める。

11) 信原靖、高島和宏両業務執行理事が IOF より Pins of honor (blonz)受賞(村越副会長)

ヨーロッパ外における2回のスキーO 世界選手権開催と、それによるスキーO のグローバル化への貢献により、信原靖、高島和宏両業務執行理事が IOF より Pins of honor (Bronze)を受けた。

12) WOC2026 スプリントリレー報告(鹿島田業務試行理事)

2026年世界選手権(スプリント)がイタリア、ジェノバで開催され、日本選手は、個人種目で男女2選手の決勝進出に加え、スプリントリレーで12位と、従来の最高成績21位を大幅に上回る結果を残した。

13) NS 検定細則改訂の報告(信原業務試行理事)

現状に合わせて、上級検定員の条件を明記した。

14) 令和 8 年度第 1 回 JOA パラ委員会議決事項の報告(野中理事)

設立後初の会合が行われ、今後の活動を協議し、本年度の活動を次の通り決定した。

1. JOA 中期計画にある JPSA 登録・JPC 加盟について、デフアスリートの意見を聴きながら進める
2. 聴覚障害者への普及について(筑波技術大学へのアプローチ)

15) IOF の最近の動向について(IOF 杉山理事)

- ・2026-2030 の Strategic Directions が策定され、オリンピック種目を目指すことが挙げられた
- ・競技そのものの世界的な普及・レベルの向上、競技の知名度の向上が求められるため、マーケティング及びコミュニケーションを強化するための WG が設置され、杉山顧問もメンバーとなった。
- ・アジアに大きな期待がかかっており、World Ranking Event の大会の増加や広報を進めていきたい
- ・技術的なツールとして IOF TV の視聴が増えているが、アジアにおいては伸びていないため、その活用も考えていきたい。
- ・日本がアジアの中でリーダー的立場を期待されている

討議・検討・意見交換

1) 全日本リレー大会に関する要望及び各県スポーツ協会の加盟に関する意見について(信原業務執行理事)

北海道・東北ブロック連絡協議会から次の要望があり、討議を行なった。

- ・選手権クラスへの各会員からの派遣チーム数の上限を定めること
- ・ふるさと登録先の条件について、「競技者登録に関する施行細則」第1項の内容を見直し、より地方会員がチームを組めるような内容にすること
- ・XV クラス(65 歳以上)よりさらに上の年齢のクラスを設定すること
- ・各県スポーツ協会(各県体育協会)への加盟促進の働きかけをすること

(質疑・意見など)

- ・全日本リレー選手権クラスへの派遣チーム数の上限設定について、千葉県協会からの意見として、チーム数の制限は学生と社会人との交流の機会が縮小し、地域クラブや協会の弱体化につながる可能性があること、チーム数制限の効果への疑問、全日本リレー大会の魅力の低下への懸念等の意見が出された。
- ・学連の理事からは、学生にとって全日本リレー大会の参加方法やふるさと登録の制度がわかりにくい、県協会から学生への通知など学連として協力できることがあるのではないかと意見があった。
- ・各県スポーツ協会への加盟については、過去の事例から、各県ごとに加入を進めるのは難しいとの意見があり、JOA から JSPO への状況の確認を検討することとなった。
- ・対応の現状について、上記の内容を、北東ブロックに文書で返答する。

2) コーチ1・2の資格制度に関する提言について(信原業務執行理事)

JSPO 認定資格であるコーチ1・2について、新規登録者が少なく、講習会の開催ができない状態にある。公認スポーツ指導者であるコーチの役割を再確認し、JSPO の方針もふまえ、不祥事の防止やガバナンス強化のために、コーチの活用場の増加を理事会が主導して実施することを提案する。

(質疑・意見など)

- ・コーチの参加義務付けの案について質疑があり、イメージの共有を行なった
- ・今後、まずは業務執行理事で検討することとなった

3) 認定資格規程の管轄および構成変更について(信原業務執行理事)

「認定資格規程」の内容を整理し、担当委員会ごとに規定を分割したい旨説明があり、次のように担当することとなった。

- ・「認定資格規定」(改訂):総務委員会
- ・「オリエンテーリング指導員資格規定」(コーチ・インストラクタを規定):普及・指導委員会
- ・「オリエンテーリング〇〇資格規程」(イベントアドバイザー・イベントディレクタを規定)競技委員会

4) オンラインセミナーの取り扱いについて(今泉業務執行理事)

事実上有志により企画・開催されている「JOA オンラインセミナー」の活性化のため、所管を決定し、一定の仕組みの下で運用できるようにしたい。

- ・所管を総務委員会とする
- ・各委員会中心に企画を持ち寄り開催する
- ・外部からの持ち込み企画については基準等を設け、委員会からの推薦を経る
- ・その他手続きについて今後検討が必要だが、なるべく簡易なものとしたい

5) JOA 内でのコミュニケーションツールの変更(今泉業務執行理事)

- ・JOA 内のコミュニケーションツールについて、電子メールベースから Google Workspace やチャットツールを使用する方法に変更し、事務局業務を効率化するとともにデータガバナンスを強化する。
- ・移行作業については、セキュリティを保ちつつ、ダウンタイムを最小限とするため、その移行支援作業を専門業者に外注する。

次回理事会は 2026 年 12 月 5 日(土) 14:00～(オンラインにて)

本日のオンラインシステム会議は、終始異状なく議題の審議を終了したのを確認した。

第53 回理事会議事録 以上

2026 年 9 月 5 日

公益社団法人 日本オリエンテーリング協会

議事録署名人

議長 代表理事副会長 村越 真 印

監事 齋藤 宏顕 印